

### 3 火災から学ぶ

高齢者世帯で火災が発生した場合に、特に注意しなければならないのが、避難に時間がかかることです。火災を発見してすぐ走って廊下や階段を避難できる若い人とは違い、足腰が不自由であったり、持病のために走れない方もおられ、避難のための時間を稼ぐことが求められます。

### 4 対応策

#### (1) 早期発見

火災の発生に伴い、多量に煙が発生します。火災に気付かず煙に巻かれて、CO中毒(一酸化炭素中毒)により動けなくなり逃げ遅れてしまう場合があります。火災を早期発見するためには、住宅用火災警報器を設置することで早期に発見することができます。総務省消防庁の調べによると、住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ、被害状況が概ね半減した結果となっています。住宅用火災警報器をまだ設置していなければ、早急に設置しましょう。


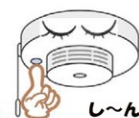
また、住宅用火災警報器は、設置が義務化されて10年以上が経過しています。交換の目安は設置から10年と言われており、電池が切れると火災を感知しなくなりますので、定期的に点検、交換をしましょう。

### 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器は**寝室**と**台所**に設置が必要です。また、その他条件によっては**階段**や廊下にも必要となってきます。

#### 日頃のお手入れと作動確認

住宅用火災警報器設置義務化から10年が経過しました。お宅の住宅用火災警報器は電池切れや機器の故障などで作動しなくなっていないですか？  
今一度、維持管理に努めましょう！！

<p style="text-align: center;"><b>正常なら次のように鳴ります</b></p>  <p style="text-align: center;">ピーピーピー* 火事です。</p> <p style="text-align: center;">※この警報音は代表例です。</p>	<p style="text-align: center;"><b>ボタンを押しても(ひもを引いても)作動しないときは、次のことが考えられます。</b></p>  <p style="text-align: center;">し〜ん</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◇電池がきちんとセットされているか確認しましょう。</li><li>◇それでも鳴らない場合は取扱説明書を確認しましょう。</li><li>◇また、「電池切れ」や「機器本体の故障」の場合は、速やかに電池や機器本体の交換をしましょう。</li></ul>
---	---

#### (2) 火災拡大防止

火災での死者の発生状況を見ると、「逃げ遅れ」が多いことから避難できる時間をつくるのが重要です。そのため、防災物品や防災製品(以下「防災品」という)を使用していることで火災の拡大を防止することができます。特に、避難に時間を要する高齢者は、防災品を使用することで、火災による被害の抑制や避難のための時間をつくることができます。



おわりに

大阪市における65歳以上の高齢者の人口割合は、平成22年国勢調査時点では22.7%でしたが、平成27年国勢調査では25.3%と上昇しており、ほぼ4人に1人が高齢者という人口構成になっています。住宅火災における65歳以上の死者の割合は、過去5年平均をみると約65%であり、大阪市の高齢者人口割合25.3%に比べ、大幅に上回っています。このようなことから、高齢者と接する機会を捉え、高齢者を火災から守るため、地域ぐるみでの「火の用心」をお願いしたいと思います。

また、火がついても燃えにくい防災性能を有するエプロンや割っぼう着、パジャマ(寝まき)、寝具やカーテンなども市販されています。高齢者へのプレゼントの候補に防災品や住宅用火災警報器などを加えてみてはいかがでしょうか。